
山陰地方における 自動車所有に関するアンケート調査結果

～新車の平均購入価格は296万円～

2026年8月21日

山陰合同銀行 地域振興部
産業調査グループ



目 次

I. 調査概要	P2
1. 調査目的	P2
2. 調査要領	P2
II. 結果概要	P3
III. 詳細結果	P4～18
1. 現在の所有動向	P5～12
2. 買い替え意向	P13～16
IV. あとがき	P17

I. 調査概要

1. 調査目的

公共交通網が脆弱な当地では、自動車が主要な移動手段となっており、多くの人が1人1台に近い水準で自動車を保有している。

このように非常に身近な存在でありながら、販売台数といった供給側の統計データは一定程度整備されているものの、購入価格や支払い方法など、需要側からみた統計データは、全国ベースの調査が一部にみられる程度であり、山陰両県に関するデータはなかなか見当たらない。

そこで今回、消費者を対象に現在の所有動向や買い替え意向に関するアンケート調査を実施し、その実態を把握する。

2. 調査要領

- ①調査時期 : 2026年6月12日～16日
- ②調査対象 : 山陰両県在住の会社員・公務員
- ③調査方法 : Webアンケートサービスを利用
- ④有効回答数 : 978人

II. 結果概要

1. 現在の所有動向

- 自動車所有者のうち、7割超は新車ユーザー。
- 購入時に重視する点は「車両本体価格」が7割超と突出して多い。
- 平均購入価格は259万円（新車：296万円、中古車：164万円）。
- 購入方法は「現金一括」が5割超、「一般のローン／クレジット」が約3割。
- ローン契約先は、「金融機関」と「ディーラー系」がそれぞれ4割超。

2. 買い替え意向

- 平均予算は244万円。
- 購入方法の意向は「現金一括」が5割超、「一般のローン／クレジット」は3割超。
- ローン契約の予定先は「金融機関」が約5割。

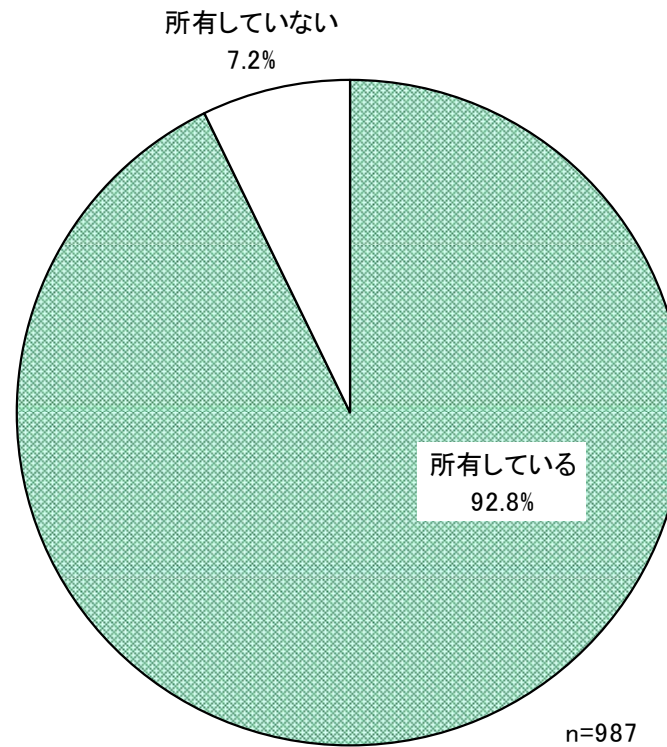
III. 詳細結果

1. 現在の所有動向

1－1．自動車所有の有無

- 現在、自身が主に運転する自動車の所有状況について尋ねたところ、「所有している」が9割超であった。

図表Ⅲ－1－1．自動車所有の有無

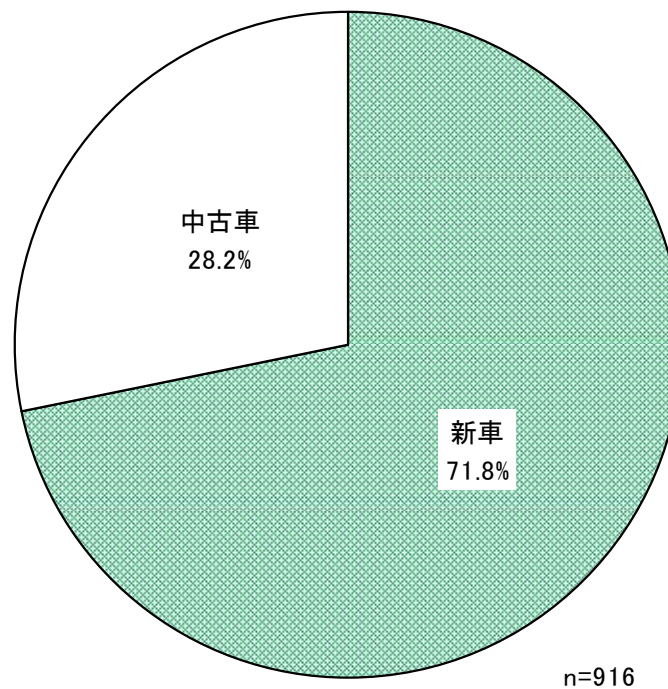


注：四捨五入の関係から合計が100%にならないことがある。以下、同様。

1－2. 所有している自動車の新車・中古車区分

- 自動車を所有している方*に、所有車が新車か中古車かについて尋ねたところ、「新車」が7割を超えた。

図表Ⅲ－1－2. 所有している自動車の新車・中古車区分

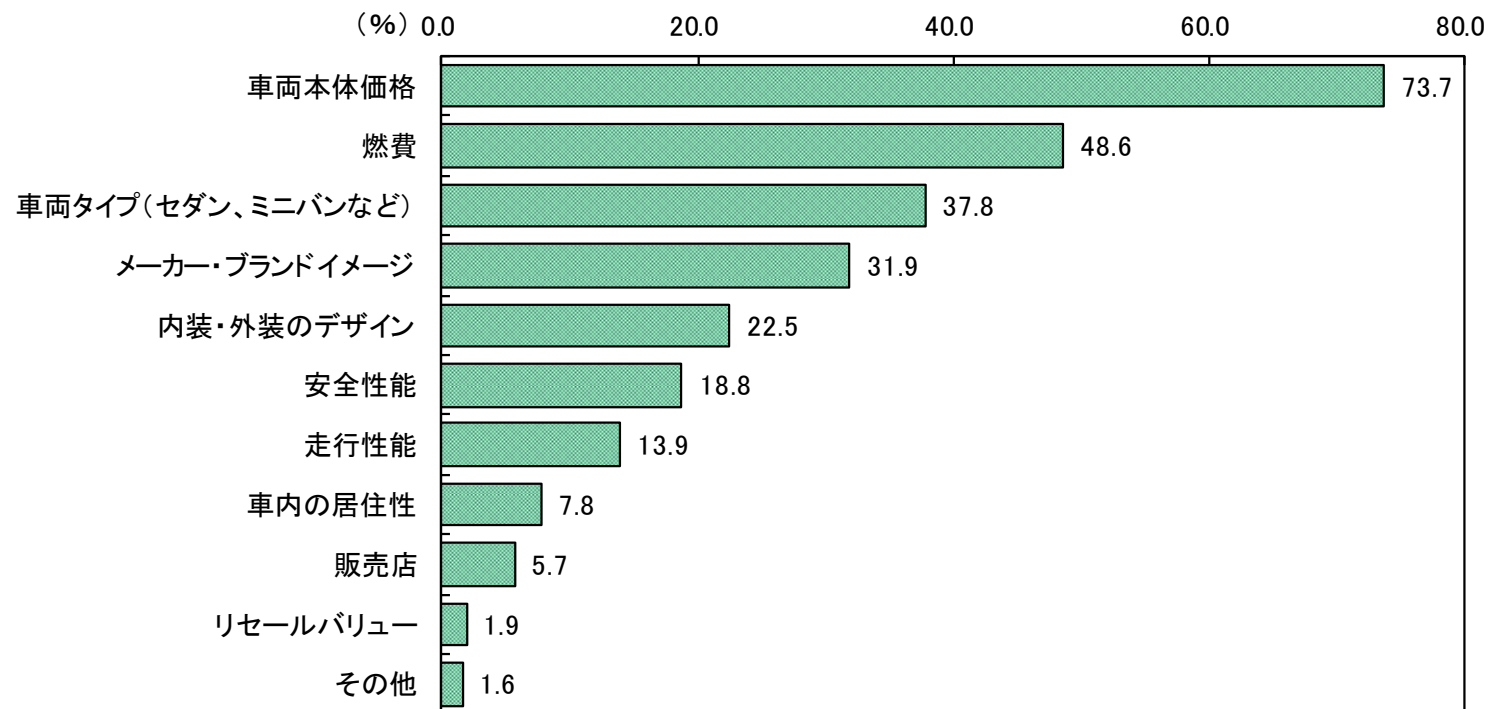


* : 次ページ以降の設問も同様。

1－3. 購入する際に重視する点

- 自動車を購入する際に重視する点について尋ねた（複数回答）ところ、「車両本体価格」が73.7%で突出して多く、次いで「燃費（48.6%）」、「車両タイプ（37.8%）」、「メーカー・ブランドイメージ（31.9%）」などと続いている。

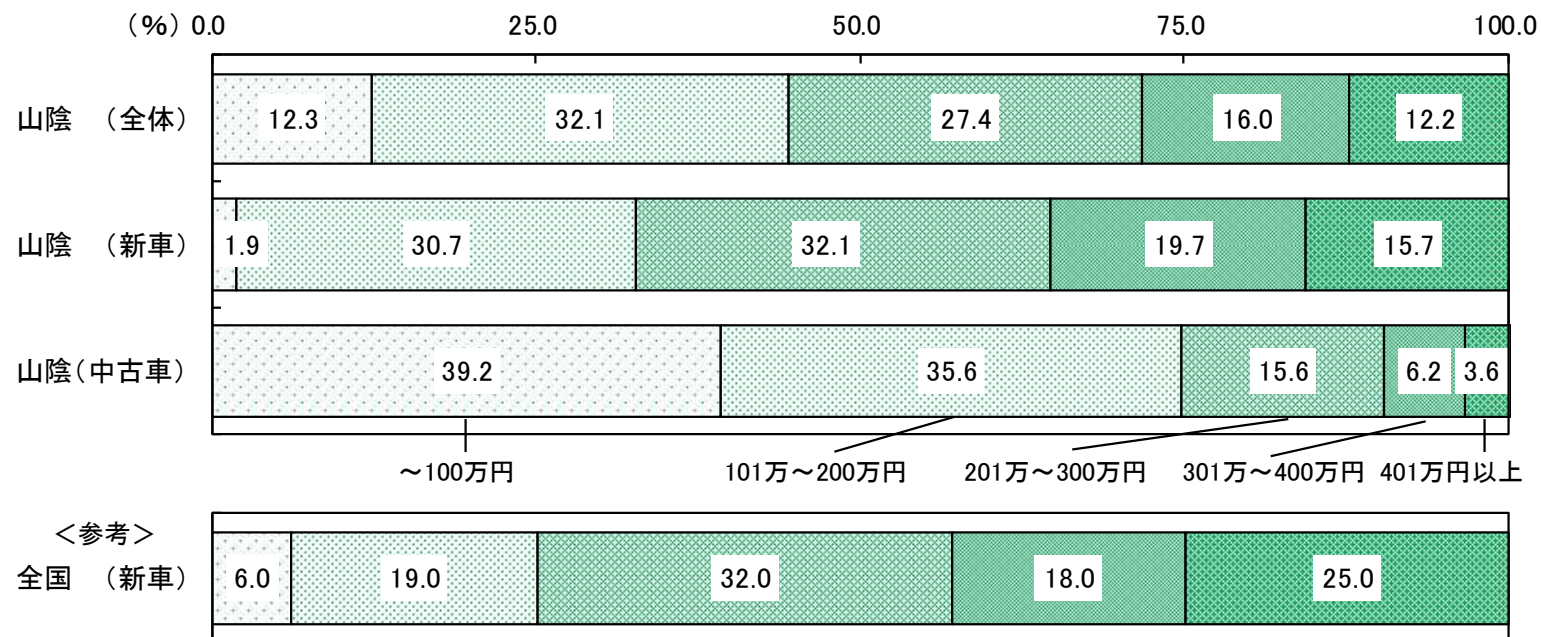
図表Ⅲ－1－3. 購入する際に重視する点（複数回答）



1-4-1. 購入価格（支払総額）

- 現在所有している自動車の購入価格（支払総額）をみると、全体では「101万～200万円」が32.1%で最も多く、次いで「201万～300万円（27.4%）」、「301万～400万円（16.0%）」と続いている。
- 参考値として、山陰（新車）と全国（新車）*を比較すると、山陰は全国に比べ「101万～200万円」が10ポイント以上高いが、「401万円以上」は約10ポイント低くなっている。

図表Ⅲ-1-4. 現在所有している自動車の購入価格（金額階層別構成比）

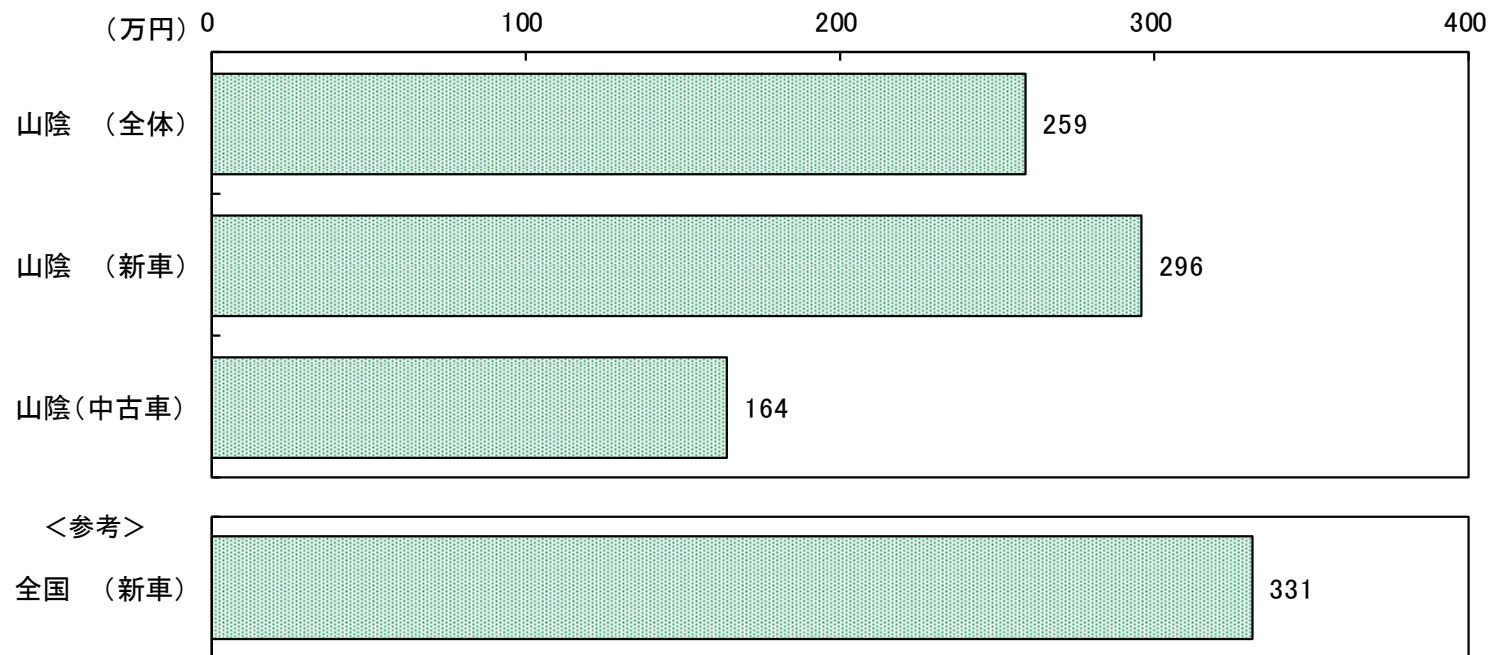


*：全国の数値は、一般社団法人日本自動車工業会「2025年度乗用車市場動向調査」を利用。以下、同様。
 全国の購入価格は「店頭価格＋オプション費用－値引き」。下取り価格は差し引かず、また税金、登録諸費用、購入補助金は含めない。
 以下、同様。

1－4－2. 購入価格（支払総額、平均金額）

- 購入価格の平均金額をみると、「全体」は259万円であり、「新車」は296万円、「中古車」は164万円となっている。
- 参考として、山陰（新車：296万円）と全国（新車：331万円）を比較すると、山陰は30万円以上低くなっている。この背景には、回答方法の違いに加え、乗用車新車販売に占める軽乗用車の割合の差（2025年 山陰：46.2%、全国：34.0%）などがあると考えられる。

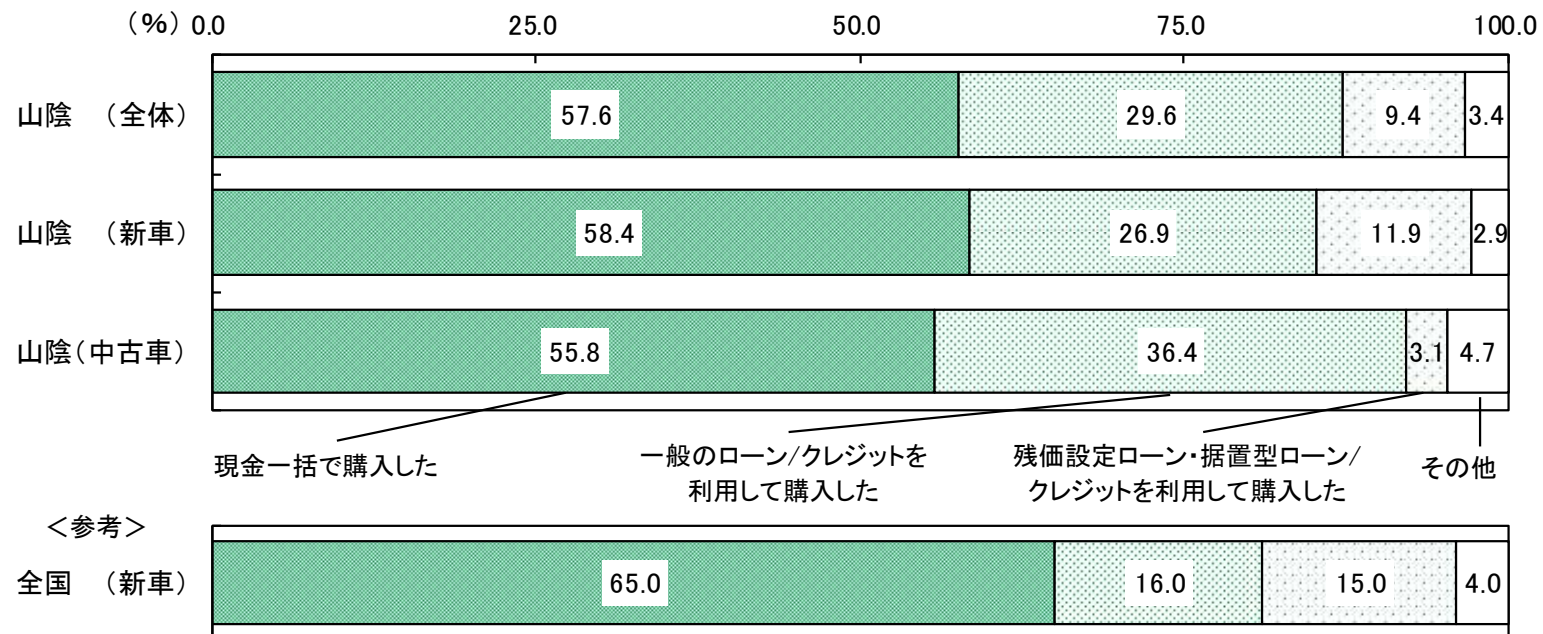
図表Ⅲ－1－5. 現在所有している自動車の購入価格（平均値）



1-5. 購入方法

- 現在所有している自動車の購入方法をみると、全体では「現金一括で購入した」が57.6%で最も多く、次いで「一般のローン/クレジットを利用して購入した」が29.6%、「残価設定ローン・据置型ローン/クレジットを利用して購入した」が9.4%など続いた。
- 参考として、山陰（新車）と全国（新車）を比較すると、山陰では「現金一括で購入した」の割合が全国を下回っている。

図表Ⅲ－１－６．現在所有している自動車の購入方法

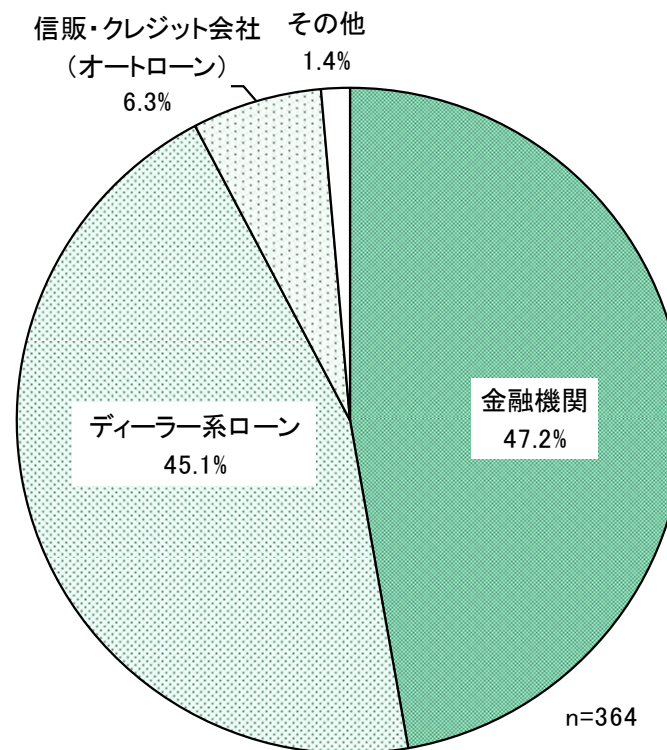


注：「その他」は、実際の選択肢である「残価据置2回払いを利用して購入した」、「リースを利用して購入した」、「サブスクリプションを利用した」、「その他」の合計値。

1-6. ローン契約先

- 前問で「一般のローン／クレジットを利用して購入した」、「残価設定ローン・据置型ローン／クレジットを利用して購入した」と回答した方に、ローンの契約先を尋ねたところ、「金融機関」が47.2%で最も多く、次いで「ディーラー系ローン」が45.1%などであった。

図表Ⅲ-1-7. ローン契約先

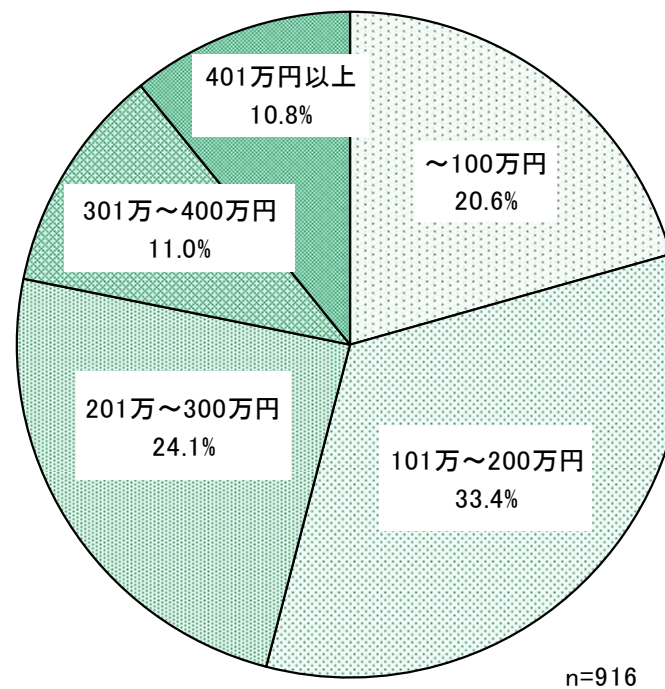


2. 買い替え意向

2-1. 買い替え時の予算

- 買い替えを行う場合の予算について尋ねたところ、「～100万円」が20.6%、「101万～200万円」が33.4%、「201万～300万円」が24.1%、「301万～400万円」が11.0%、「401万円以上」が10.8%であった。
- また、平均金額は244万円であった。

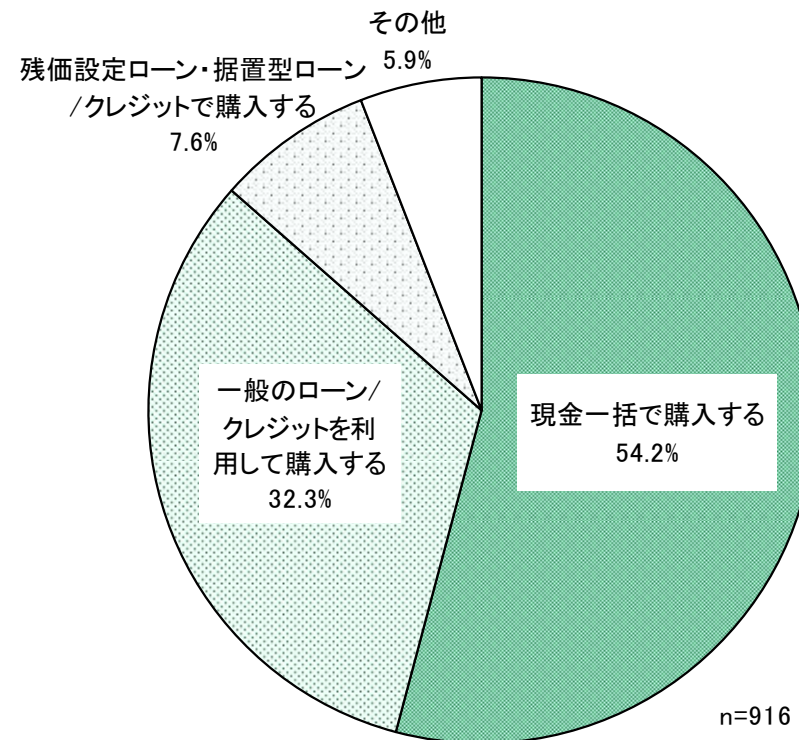
図表Ⅲ－2－1. 買い替え時の予算



2-2. 買い替え時の購入方法

- 買い替え時の購入方法をみると、「現金一括で購入する」が54.2%で最も多く、次いで「一般のローン／クレジットを利用して購入する」が32.3%、「残価設定ローン・据置型ローン／クレジットを利用して購入する」が7.6%などとなった。

図表Ⅲ－2－2. 買い替え時の購入方法

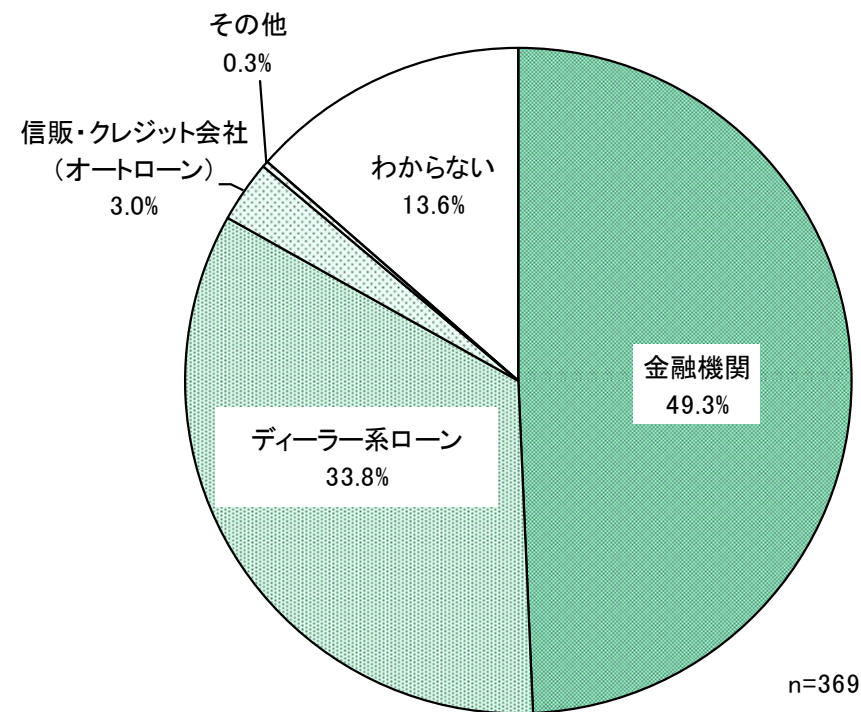


注：「その他」は、実際の設問では「残価据置2回払いを利用して購入する」、「リースを利用して購入する」、「サブスクリプションを利用する」、「その他」の合計値。

2-3. 買い替え時のローン契約予定先

- 前問で「一般のローン／クレジットを利用して購入する」、「残価設定ローン・据置型ローン／クレジットを利用して購入する」と回答した方に、ローンの契約予定先を尋ねたところ、「金融機関」が49.3%で最も多く、次いで「ディーラー系ローン」が33.8%などであった。

図表Ⅲ－２－３. 買い替え時のローン契約予定先



IV. あとがき

当地では、回答者の9割超が自身で主に運転する自動車を所有しており、所有車の平均購入価格は259万円であった。また、購入方法をみると、全国に比べ現金一括の割合が低く、この背景には、地域の所得水準や消費行動の違いなどが影響している可能性がある。

従前から環境基準や安全基準の厳格化・高度化等により車体価格は上昇傾向にあったが、コロナ禍以降の供給制約や原材料価格の上昇などを背景に、各種部品価格も上昇し、その傾向に拍車がかかっている。こうした状況を踏まえると、家計負担の増大が懸念されるためか、次回買い替え時の平均予算は現所有車の平均購入金額よりも低くなっている。また、近年登場した残価設定型ローンやサブスクリプションは、当地のライフスタイルや価値観に馴染みにくいことなどから、利用は限定的であり、当面は大幅な増加は見込みにくい。

自動車は交通手段としての耐久消費財であると同時に、販売ディーラーや整備事業者、ガソリンスタンド、保険など多岐にわたるサービスを伴う一大産業である。今後は少子高齢化によりユーザーの減少傾向が見込まれることに加え、経済情勢の変容に伴い、自動車の所有・利用の変化が地域経済にどのような影響を与えるのか注視していく必要がある。

（本末 直巳）